

高梁市における 独自の医療計画策定と連携の推進

岡山県高梁市長

近藤隆則



「地域医療は、まちづくり」の理念のもと、本市では独自の医療計画を策定したことにより、明確となった課題を関係機関と共有するとともに、その対応策についても一体となった取り組みを進めている。

高梁市の医療の概要

高梁市は岡山県の中西部に位置しており、広大な面積（546.99km²）を有する一方で、過疎高齢化が進んでいる人口約3万人の中山間地域の自治体である。市街地には民間の病院・診療所が集中しており、それぞれの不断努力もあって、中心部における医療提供体制は周辺自治体と比較しても充実している。一方で、交通アクセスの問題を抱える周辺地域の医療は直診施設が担っており、その中心となるのがへき地医療拠点病院の指定を受けている成羽病院（96床）である。

高梁市の直診施設

成羽病院は、高齢化率が約47%となっている市の西部を診療圏としている。経営は厳しさを増しているが、

message

市内唯一の公立病院として、地域に必要な医療を安定的・継続的に提供する責務を有しており、医師・看護師をはじめとする医療従事者の安定的な確保は大きな課題となっている。

当病院では消化器疾患の専門医が充実しているほか、小児科以外の医師も総合診療医として小児科時間外救急をできるだけ受け入れている。こうした環境は、総合診療・地域医療を目指す医師にとっての魅力でもあると考えられるので、今後においても関係機関等への周知を図り、地域枠医師の確保継続および常勤幹部医師の確保を目指したいと考えている。

また、川上地域には川上診療所を中核とする医療・介護・福祉の複合施設を設置している。この施設は指定管理としており、地域医療に対する強い志を有する医師のもと、社会福祉法人旭川荘による地域包括ケアへの先進的かつ献身的な取り組みを継続いただいている。

川上診療所では、当直やオンコールの体制による夜間・休日を含めた24時間の医療サービスが提供されるとともに、患者の生活の様子に気を配り、状況に応じて朝夕の安否確認まで行われている。医師とスタッフが一体となって続けられているこの取り組みは「川上方式」として認知されており、高齢化の進む地域のまちづくりとしても高く評価されている。

こうした取り組みが拡大されることが望ましいが、他の地域では施設・人材の両面において条件が大きく異なる。人口減少が進む中、医師会の協力も得ながら、成羽病院の附属施設を含む小規模な直診施設において最低限の医療の提供を続けているのが現状である。

医療計画策定の経緯

このような状況に対し、高齢化が進行する地域での生活においては、受診環境の確保に対するニーズが極めて高い。住民目線に立った持続可能な医療提供体制の構築は、高梁市の定住対策の中でも特に力を注ぐべ

き分野であると考え、重点施策として取り組んでいる。

医師会をはじめとする市内の医療機関等との協議では、病院経営者等から人口減少による将来の経営に対する不安や、看護師をはじめとする深刻な人材不足などの声が多数あった。一方で、将来を見据えた相互の連携の必要性など、市内の医療を守るための前向きな意見も多く、地域医療を担う関係各位の熱意を感じることができた。

広大な市域の中にさまざまな特性を持つ地域を有することに加え、医療従事者の不足や高齢化が進む中、直診施設を含む市内の医療機関が単体で対応していくには限界がある。本市では、地域医療の現状・課題の認識を関係者が共有し、地域全体が連携して課題解決に取り組めるよう、独自の医療計画を策定することとした。医療機関等の協力のもと、関係データの収集を図り、平成29年度には住民や医療関係者等に対する大規模なアンケートを実施・分析した。整理したデータをもとに関係者による議論を重ね、平成30年5月に「高梁市医療計画」が完成した。

本計画は、具体的な数値に基づき課題を可視化するとともに、掲げている対応方針についても関係機関等の合意を得て策定している。このため、現在も同じ体制で計画推進に向けた前向きな議論が行われている。

地域医療は、まちづくり

周辺地域を多く抱える本市にあって、医療資源の最適配分や地域包括ケアシステムの構築など、計画の推進に際して直診施設が果たすべき役割は大きい。こうした市域全体に係る問題に対しても、市内の医療機関等がまちづくりの意識を持って一緒に検討いただいていることには心から感謝している。

地域の将来を見据えた計画のもと、今後の地域医療の確保と充実を目指した努力が地域住民の安心な暮らしにつながることを心から願っている。